

ICT 企業との協働による地域の居場所のためのメニュー開発および PC 寄贈事業 —AI を活用した3つの交流プログラムを開発—

1. 事業概要・目的

神戸市東部では孤独・孤立化が課題となっており、当法人ではそれらを改善するため「常設型の地域の居場所」の設立・運営支援に注力してきた。しかしながら、現状では、制度化がされておらず、あらゆる資源(ヒト・モノ・カネ)が不足している。それらの課題の中でも特に資金面での課題改善のため、昨年度より地元企業 10 社が、地域の居場所 10 か所を支える「ごちゃまぜかふえ」の仕組みを実験導入してきた。今年度は、企業連携の動きをさらに加速させるべく、地域 ICT 推進協議会(会員 97 団体・個人)と協働し、研究会を組成、Win-Win となる企業と居場所の関係構築と事業の実装を目指した。

2. 事業の内容

①研究会の開催(年 5 回)

…地域 ICT 推進協議会に所属する会社(株式会社ハック、株式会社 iC)、地域の居場所(NPO 法人灘つどいの家)、オブザーバーで中間支援組織(認定 NPO 法人コムサロン 21)と事務局のCS神戸で組成。AI 交流プログラムの検討やごちゃまぜかふえでのトライアル等を実施した。

②AI を活用した交流プログラムの開発(計3プログラム)

…地理やポケモンなどのテーマに沿って AI が無限に 2 択クイズを出題する「トロッコゲーム」、それぞれの地域の特色や見た目の特徴などを入力すると妖怪を画像生成する「ようかいメーカー」、PC カメラで顔を認識させると若返ったり性別が変わったりする「へんしん鏡」の3プログラムを開発。

③企業から居場所への PC の寄贈(計 12 台)

…上記の AI プログラムを掲載した中古 PC をごちゃまぜかふえ団体および播磨の団体に寄贈。

④居場所サミットの開催

…2026 年 2 月 21 日に研究会の報告・AI プログラムの披露・贈呈式を兼ねたサミットを開催予定。

3. 成果とこれから

地域のつながりづくりというアナログ的要素の強い居場所(ごちゃまぜかふえ)と、AI ゲームというデジタルコンテンツが組み合わさり、ICT 企業群による新たな支援プログラムの創出ができた。余剰PCの寄贈はICT企業にとってはハードルが高くない社会貢献であり、今後、別地域での展開も期待できる。そのためにはICT企業および地域の居場所の両方の現状を把握した上で調整が不可欠となるため、今回その役割を果たした当研究会の役割を整理し、公開することで他地域での展開に寄与していきたい。



トロッコゲーム



ようかいメーカー